

瓦版〇〇〇新聞

第11号

2017年2月8日

発行者

大森氏おしゃべり倶楽部

*唐名

房定

「戸部(こぶ)郎」
(戸部≡民部省)

「太守(≡知事の雅称)」
(≡守護)

顕定

「相府(しようふ)」
(≡大臣)

「使君(しくん)」
(≡守護)

定正

「匠作(しようさく)」
(≡修理職)

「府君」

(≡府の太守の尊称)

「相公(しようこう)」
(≡参議)

道灌

「金吾(きんご)」
(≡衛門府)

「二千石(にせんせき)」
(≡「太守」)

なんと呼ばれていたのか

『梅花無尽蔵注釈索引』(市木武雄)をながめていたら、太田道灌のほか、関東の上杉氏の面々がよく出てきます。

山内上杉房定

顕定

扇谷上杉定正

朝良

太田道灌

資康

山内上杉

房定(1431～1494)

「上杉戸部郎」

「越州太守」

「越守常泰」

「常泰」

「常泰公」

「越後太守常泰」

「越之後州賢太守常泰」

「越後州之府君常泰」

顕定(1454～1519)

「上杉顕定」

「顕定」

「東相府」

「相武之両使君」

扇谷上杉

定正(1443～1494)

「上杉匠作」

「匠作」

「上杉修理大夫」

「府君」

「相州太守」

「関東相公」

「贗釣(がんちよう)」

「贗釣斎」

「贗釣亭」

朝良(1473?～1518)

「扇谷五郎閣下」

太田道灌(1432～1486)

「太田道灌」

「灌公」

「道灌公」

「静勝(じょうしょう)公」

「道灌静勝軒」

「春苑道灌静勝公」

「太田左金吾春苑灌公」

「太田左金吾道灌」

「太田春苑道灌」

「太田二千石灌公」

「太田二千石静勝灌公」

「太田二千石静勝春苑灌公」

「前金吾太田二千石静勝公」

資康(1476～1513?)

「太田源六」

「太田資康」

「太田源六資康」

*唐名

房定

「戸部(こぶ)郎」
(戸部≡民部省)

「太守(≡知事の雅称)」
(≡守護)

顕定

「相府(しようふ)」
(≡大臣)

「使君(しくん)」
(≡守護)

定正

「匠作(しようさく)」
(≡修理職)

「府君」

(≡府の太守の尊称)

「相公(しようこう)」
(≡参議)

道灌

「金吾(きんご)」
(≡衛門府)

「二千石(にせんせき)」
(≡「太守」)

私たちが「さだまさ」「どうかん」と呼び捨てしているような表現は、ないとは言いませんがあまり見当たりません。

実際には近親の間では「鶴千代様」(道灌)と幼名で呼ばれることもあったでしょう。大袈裟な公職名を呼ばれることは、主に文章の上だったろうと思います。

私たちは、「どうかん」「げんろく」で行きますか。(ああ)

私が興味を持ったのは、「これらの人々が、当時どのような呼ばれていたのか」ということです。

(もつとも、『梅花無尽蔵』は漢詩文集ですから、形容の仕方には、普通でない大袈裟なところばかりです。)